

以下では、これから韓国語を勉強したいがどの本がよいか迷っている学習者のために、参考にしてほしい本をいくつか取り上げる。ただ、以下にリストアップされている本は、私が見た数多く出版されている韓国語の参考書の中のほんの一部に過ぎない。書店に行くとより多くのさまざまな種類の本がそろっているので、自分が直接手に取って自分に合う本を選ぶことをおすすめする。

初級者向け

河村光雅・田星姫 (2002) 『しっかり身につく韓国語トレーニングブック』ペレ出版

初級の文法事項についてかなり網羅的に、しかも丁寧に扱った、トレーニングブック形式の本です。各課の最初に簡単な文法説明と新出単語リストがあり、その後でそれらを使った問題が多数並ぶという形式。この本で反復トレーニングを行えば、韓国語の基礎はみっちり鍛えられます。

嚴基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈 (2010 年) 『韓国語の初歩』白水社

文字と発音 10 課＋会話と文法 14 課構成。本文、発音、単語、文法と表現、練習問題の順で構成され語彙を広く取り入れている特徴を持つ。最大の特徴は課ごとにコラム形式で韓国の生活文化などを紹介していることです。

油谷幸利 (2005) 『日韓対照言語学入門』白帝社

題目の通り日韓対照研究についての概説書です。概説ですのでどちらかといえば、韓国語を研究したいという人向けですが、もう少し韓国語を詳しく知りたいと思う人であれば絶対に役に立つと思います。

油谷 幸利・コヨンジン (2005) 『実用韓国語』 白水社

同志社大学が大学テキストとして作製したもので、文法項目が体系的に示されており、変則活用、語句の説明などの面においても参考できる教材です。

中級者から上級者向け

河村光雅 ほか (2005) 『しっかり身につく中級韓国語トレーニングブック』 ペレ出版

韓国語の中級で学ぶことは、一言でいえばさまざまな表現を増やしていくことだけであるが、学習者が共通にぶつかる「壁」＝「いつ、どのように使えるか？類似表現との違いは何か？」という悩みに応えるべく、しっかりと編纂されたトレーニングブック。丁寧な作りとなっているので、初級が終わった後はぜひチャレンジしてほしい。

白 峰子 (2004) 『韓国語文法辞典』 三修社

あくまでも辞書なので、メインの学習書としての役割には果たせませんが、母語話者でも説明が難しいような項目も沢山設けており非常に参考になる本の一つです。

前田 真彦 (2009) 『前田式韓国語中級文法トレーニング』 アルク

初級を終えていきなり中級は難しいと感じる人におすすめ。トレーニング形式であり、「前田先生」が話しかけるような形で編集されているので、自ら能動的に問題を解きながら理解する仕組みになっています。

油谷 幸利 (2006) 『間違いやすい韓国語表現 100 中級編』 白帝社

いちおう初級を卒業したが、体系的に知識が整理できているかどうか自信がない、

という人は、ぜひこの本のはじめにある「初級文法項目の整理」でチェックしてください。この部分はまとまっていて、この先の学習でも何度も参照できます。初級が終われば、本体の中級項目にもチャレンジしていきましょう！

李 翊燮 ほか著 梅田博之監修 (2004)『韓国語概説』大修館書店
研究者向けの本。韓国語の歴史的な話や韓国という背景から韓国語を理解することができる。

李 允希 ほか (2007)『韓国語学習 Q&A200』アルク

韓国語を学んでいる人達の疑問を集めてそれを本にしたもの。「韓国語には男言葉や女言葉があるのか？」「二つの否定形の違いは？」など、独学で勉強している人が持っていた疑問がきっと解決できるはず。

特に聞き取りを練習したい人へ

金 珍娥 (2004)『Viva! 韓国語』朝日出版社

初級は卒業したが中級の学習書は難しすぎて…という人におすすめです。この本は特に会話部分がよくできていて、付属CDにもきれいな韓国語が収録されています。繰り返しCDを聞いてこの会話をマスターすれば、自然と中級韓国語もマスターできることでしょう。